

【出席者】

社会教育委員：田代保廣委員、熊谷紀男委員、鈴木美香委員、萩原淑恵委員、  
西田正鋭委員

社会教育課：清水基之社会教育課長、杉山啓太郎社会教育係長

【会議の内容】

1 開会（事務局：杉山）

2 黙祷

3 田代議長あいさつ

- ・会議は久しぶりになるが、前回は金谷公民館を視察した。公民館の在り方について議論するのは、今年の8月以来。
- ・黙祷を捧げたが、八木議員には改めてお悔やみ申し上げる。
- ・AI化や教育関係のICT化でタブレットなども使われているが、初倉の小・中学校の学校運営協議会があり、小学校はその前に授業参観があったが、子供たちがタブレットを手品のように使いこなしている。
- ・キーボードを一瞬で打ち、画面が出てくると、先生が大変ではないかと感じたが、それだけ教育環境が変わってきている。
- ・心配するのはAIの方が先に進んでしまわないかとの話も出ているが、アメリカのある大学の研究結果によると、人間の脳は体重の2%しかないがエネルギー消費は20%。なるべく脳の消費を省力の段階に持っていきたいのが、人間の本能。専門家やAIがこうだよと言うと、自分で考えることをやめてしまい、思考力が止まるのがそもそも人間にはある。AIが答えを出すと、正しくても間違っている人間はそうなんだとなってしまい、恐ろしい話であると脳科学の研究者から提起されていた。
- ・学校の姿を見る中で、子供たちがこれから30年40年生きて、AIと共存していく中で取り残されては困る。自分の思考力を養ってもらいたいと授業参観を見ながら感じた。
- ・愛するあなたへの悪口コンテストの大賞の「11月なのに夏日だった 夫が私の服を褒めた 何か狂ってる」を読んで20分程考えたが、意味がわからなかった。妻に聞いたり同級生に聞いたが、女性はすんなりわかった。

4 清水課長あいさつ

- ・はたちの集いについては、ご協力いただいたおかげでいい式になった。
- ・今日の議題である公民館の在り方については、これまで時間をかけて協議いただいたところは公民館の成り立ちなどであったが、今後のニーズについてと変

わっていくところ、変わらなくていいのか、資料を参考にご意見をいただきたい。

## 5 議題

※次第5の(1)の前に(2)の報告を行う。

### (2) 令和5年度社会教育関係者研修会（報告）

田代議長

- ・1月22日に県の協議会の研修が磐田市で開催され、島田市からは私と熊谷委員と事務局が出席した。
- ・講師は草地博昭磐田市長。令和3年に磐田市長になり当時39歳。講演内容は磐田市の紹介を兼ねながら、磐田市の生涯教育、社会教育、ご自分の考え方について話をされた。
- ・磐田市は16万6,744人で県内5位で、外国人は8,966人で県内3位。工場の街ということで、製造品の出荷額も県内で4位。
- ・市長本人は磐田市出身だが愛知県の高専を卒業し、JR東海を経て、磐田市に戻ってきて、体育協会やボランティア的な活動をしてきた中で、市長選に当選。
- ・社会教育、生涯学習を通じてウェルビーイングを実現したいと言っていたが、世界幸福度ランキングは世界第47位。生産はそれなりにあるが、人間の幸福とは何か。エンゲージメントという会社組織への信頼度の言葉がある。会社と従業員と幸せな段階があるとWinWinの関係で、ウェルビーイングとなるが、そもそもウェルビーイングとは身体と心と社会的な繋がりが合わさったところがウェルビーイングとなる。
- ・4to40、4年かけて学んだ知識が40年有効だとの考えであったが、今は4to4、4年かけて学んだものは4年しかないので、学び直しが必要。
- ・全世代が「学びたいこと」を「学びたいとき」に「学びたい場所」で学べる校舎のない学び舎。多くの市民が多様な学びによるワクワク体験をさせたいと話を締めくくられた。

熊谷委員

- ・若々しい市長でテンポよく話をされていた印象。
- ・色々なことを言われていたが、確実に地についた改革をやっているんだろうなと感じがした。
- ・若い方が出てくる土壌に興味があった。魅力的な講演会であった。

### (1) 「島田市における公民館の今後の在り方について」の検討

田代議長

- ・これまでは論点の展開について説明し、議論をしていただいている。その中で具体的な話を事務局にも加わっていただいて、執筆をお願いした経過がある。事務局から説明をお願いしたい。

事務局

- ・公民館の今後の在り方の諮問の協議については、第3回に委員の皆さまから自由に意見をいただいて、腰を据えた協議はその時以来になる。皆さんから

いただいた意見は、公民館の求められる具体的な役割になるので、大事な言葉を盛り込んでまとめた。資料は資料1の2ページ、3ページ。赤字の箇所が皆さんの意見をまとめて作文をしたところ。

- ・求められる具体的な役割は何かを会議録を読み直して、一番大事だと感じたのが人と人が繋がる、繋ぐ、絆というキーワードが出ていた。それは、他の役割と並列にはできないと感じ、ひとつ上のサブタイトルとした。
- ・黒字の4つの項目は、議長が挙げてくださった項目ではあったが、それを参考に項目立てをした。1つ目として、世代や分野を越えた交流の場としての公民館。2つ目として、居場所としての公民館。こちらは鈴木委員からお話をいただいた不登校の子の居場所や、外国人に関しては八木委員や熊谷委員からも意見をいただいていたので、居場所をキーワードにした。3つ目は、文字通り社会教育施設であるため、学びの場としての公民館として挙げた。最後の4つ目は、学校との連携を図る場ということで、地域学校協働本部事業、地域学校協働活動推進員も実際に活動してくださっていて、学校と繋がられればと鈴木委員からもご意見をいただいていたこともある。以上、4つの項目を挙げた。
- ・1つ目の世代や分野を越えた場としての公民館は、子供から高齢者まで様々な方が利用するが、祭事など伝統の継承のことを松本委員が仰っていた。八木委員が仰ってくださっていた世代を越えた交流は、地徳に繋がってくるのかというところで表現した。ボランティアやNPO団体なども実際に活動されているので、連携や交流が図れれば、非常に有益であると鈴木委員からお話をいただいていた。最後の3行も鈴木委員が仰ってくださっていたことだが、若い世代は今を生きることで精一杯で余裕がないのが実情。そうではあるが繋がる場、楽しむ場、いつかは行こうと思えるような公民館があれば、後々人を繋ぎ続ける役割があるのではないかというのが1番。
- ・2番の居場所としての公民館は、外国人と不登校児童をピックアップした。人口については、直近の国勢調査を資料として確認した。5ページが引用した資料。2020年の日本の人口は、5年前と比べて178万3千人減少しながら、外国人は83万5千人増加しているということで、外国人が急激に増加し、上り幅も上がっている。それを引用しながら、外国人の居場所として公民館は重要であるとした。八木委員から技能実習生の話や松本委員からも識字学級の話があったこともある。小中学生の不登校児童もここ数年は増えていると磐田市長の講演でも話があった。敷居が低い、居場所としての公民館、萩原委員から隣保館あけぼのの例のお話もあったので、盛り込んだ。
- ・3番の学びの場としての公民館は、講座などを実施しているので、社会教育法の目的にもあるとおりの書き出し。学びの循環もキーワードになるので、金谷宿大学のように学ぶ楽しみ、教える喜び、そのような事業が公民館で展開されているのもいい事例であると表現している。
- ・4番は学校との連携を図る場としての公民館ということで、地域学校協働本部事業のことを触れながら、コーディネーターの方と学校との仲介役になれるような連携を図り、不登校生徒の居場所とも繋がっていけばいい支援になるのかということで、具体例を挙げた。

- ・赤字は、皆さんからのキーワードを盛り込もうとして考えた。
- ・青字は、委員の皆様から直接今までの会議でいただいた意見ではないが、役割として考えたもの。地域の防災拠点としての役割は重要。3公民館も指定避難所にはなっていないが、どの公民館も調理室も和室もあるため、避難所の機能としては適している。行政の情報も入ってくるので、そういった基地としても期待ができる。日頃の公民館活動が活発なところは、人と人との繋がりができていて、避難所運営も円滑にできるのではないかと表現した。
- ・最後の緑のところは役割ではないが、皆さんの意見をいただいたものを読みながら、重要な箇所をピックアップしておいた。
- ・1つ目は多様なニーズに柔軟に対応ということで、まずは受け入れることが大事であると書いた。発生するニーズを的確に捉えてこれまでの規定概念に囚われず、自由に対応していくことが今後の公民館活動には求められるのではないかとということで、姿勢なようなものとして書かせていただいた。
- ・2つ目は委員の皆さまからたくさんお話をいただいていたところであるが、隣保館や農村環境改善センターなど公民館的な機能を持った施設はたくさんある。それは行政側からの縦割りになってしまうので、各々の施設で活動するだけでなく、市民側からしたらそのような所管は関係ないので、熊谷委員からお話をいただいたネットワークを作るなど、スムーズな連携が今後必要なのかというところで列記した。
- ・資料は5ページが国勢調査を引用、6～11ページは島田の人口動態の資料。6ページの資料3島田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンの令和元年度に改定したものが直近のもの。2020年も推計になってしまっているが、9万5,378人も実際には上振れをしている。2040年になると8万人台、2060年になると6万人台になると予測している。7ページは外国籍の方の実績だけの資料で推計はないが、島田だけ見ても外国人が増えているのは顕著に表れている。8～10ページは参考であるが、国立社会保障・人口問題研究所が令和5年12月22日に推計をまとめたもの。島田市の人口ビジョンとの比較の資料を参考までに添付した。いずれにしても、人口は減っていくことが顕著に見て取れる資料。

#### 田代議長

- ・公民館の在り方、求められる役割の部分事務局が皆さんの意見を勘案しながら、1番から4番、追加分の分も含めて書いてくれた。皆さんの意見をかなり取り入れて、うまく書いてくれたと感じている。
- ・課題と対応しているかということもあり、課題が諮問の中にある。1ページから2ページに課題があるが、その答えになっているか。課題そのものも抹消したらどうかということもある。この整合性も考えていきたい。諮問が現状の課題と具体策とあるので、その流れで答申をしなければいけないのかとの気持ちがある。
- ・地域の防災拠点の話は、このような言い方はすごくいいと思う。避難所ではないかもしれないが、二次避難所、三次避難所になっていると思うので、全く関係ない話ではない。救護所にもなるし情報拠点にもなるので、防災の話としては載せておく必要がある。姿勢の話も役割ではないが、必要であると

考えている。

- ・議長、副議長、事務局の3人の事前の話し合いの中で、1番から4番のところへ具体例としてこのようなものがありますよと、項目ごとに具体的な事例を書くことができたなら、答えになっていくのかと。若干抽象的な部分もあるので、それを公民館に携わってきた委員の皆さま、取り組みをしていただいた委員の皆さまもいるので、そういうものも出していくと収まるのかとそんな話もした。いずれにしても、皆様のご意見をかなり盛り込んでいることを含みつつ、皆様のご意見をいただきたい。

事務局

- ・自分の作文の切り口は課題に対応させようとはしておらず、皆さんの意見を吸い上げて、盛り込んでいこうという視点。課題とどう対応させていくかは、3人でも話をした。自分の作文したところへの意見でも、課題を見直す意見でもいい。どううまく連動させようかと、皆さんの意見をお伺いしようかとの話をした。

田代議長

- ・その辺りはどうにでもなるかと。むしろ、人と人が繋がる、絆を育む公民館以下のところがどうでしょうかという話。
- ・委員の皆さんから一人ずつ意見をいただきたい。

事務局

- ・本来であれば、事前に資料を配付し、内容を確認していただいた後に意見をいただくべきであった。申し訳ない。

西田委員

- ・まずは事務局が資料を用意して色々なところから引っ張って、ここまである形にまとめてくださったことに敬意を表したい。いいまとめ方をしていると思う。
- ・田代議長が話をした課題があってそれを解決する部分、これまでのまとめ方は公民館はこのような機能を果たしているよと、これを網羅されている、まずは理想的な公民館の姿がポンと出てきていると。これに対して、現状はこうなっていて、その解決策としてこういうことが考えられて、具体的な事例がというまとめ方になるのかと。あくまでもこれは市民に対して、提言をするというニュアンスがある。

田代議長

- ・むしろ、当局に対する答申ではないか。当局がこのような答申があったので市民向けにと。市民向けになるところは運営主体にともなる。

西田委員

- ・一番初めは、公民館そのものの在り方をテーマにして、我々は議論したと思う。島田市のやり方が公民館の在り方として相応しいか。その辺りから毛色が違ってきている。誰に対してというのは公民館に対してで、公民館に提言をして公民館が自分なりに考えて、こういう改善策があるよということか。

田代議長

- ・ある市では社会教育委員会が諮問に対して答申をしている。その答申に対し

て、当局が今後このような取り組みをしていきますよと。だから全部が全部取り入れるとは限らない。予算もあるし。

西田委員

- ・逆にその方がすっきりするか。何のために作るのかが見えなかったが、今のの方がわかりやすいかもしれない。公民館に対して具体的な社会教育委員として提言をするけども、皆さんは当事者としてそれをどのように捉えてどういう改善をしていきますか、という流れだったらよりわかりやすい。それで、あくまでも3つの公民館を対象として考えていきましょうと。他の隣保館等については、それで自分事として捉えてくださいよという意味合いでいいのか。

田代議長

- ・昔もいくつか社会教育委員が教育委員会に答申しているんだけど、それに対して答えがない。うやむやになっている。

西田委員

- ・初めは島田市への提言かと思っていたが、それが市民になって。

田代議長

- ・島田市はできないものはできないでいい。我々はこうあってほしいと。今度は市民に向けて出してもらいたい。

西田委員

- ・市民ではなく、あくまでも公民館ということでもいいか。

萩原副議長

- ・教育委員会に対してではないのか。

事務局

- ・諮問は教育長名で出ている。

田代議長

- ・具体的には、公民館を所管する社会教育課。

西田委員

- ・では、社会教育課に対してになるのか。

萩原副議長

- ・社会教育、学校教育、両方か。

熊谷委員

- ・教育長からの諮問なので、教育委員会、教育長に対してになる。

田代議長

- ・教育長が社会教育課に考えるようになるとなる。

西田委員

- ・結果、社会教育課への提言という意味合いになる。

清水課長

- ・スタンスとしては、学び合う場としての公民館、地域づくり拠点としての公民館、そういったところの役割を果たすために現状と課題を整理しながら、島田市における公民館の今後の在り方の具体的な意見をいただきたいというもの。

西田委員

・それでは、もっと増やすようにでもいいのか。

清水課長

・こういった形のものが生まれるというものもあるかもしれないし、色々な角度からご検討いただければいいのかと。

西田委員

・例えば、福祉館、隣保館で持っている機能も公民館と何も変わらない、やっていることは100%コピー。だからどこで区別をつけるのかは非常に難しい。一元化してもいい。同和的なものは地区にはほとんど残っていない。昨日もあけぼので社会教育講座を申し込みにも何人も来ている。初倉公民館より人数は集まっている。

萩原副議長

・安くて、手頃だと聞く。

西田委員

・講師もいいし、地域的にも非常にいい場所にある。抽選で選定をしている。感心しているが、何が違うのかと。

田代議長

・松本委員が今日いないが、取り組み事例を紹介してもらえればいい。

西田委員

・対象がどうなるかが大事なので、それがわかっただけでもすっきりした。

事務局

・昨年、教育長、部長とも協議をした。当初、諮問があった時分はおそらくセンター化の話もあったかと思うが、実質今は金谷も指定管理で一体化してやっているし、初倉も六合も近くに行政センターも隣にあるので、あえてセンター化としなくてもそうなっているので、今のものをよりよくする方向性で考えていただければと話もあった。答申の方向性的には、市民向けというより行政よりの考えで答えを作っていたいただければいいのかと。

熊谷委員

・このような資料をまとめていただきありがたい。道筋からずれてしまうかもしれないが、感じたことだけ言わせていただく。一つは公民館の英訳はなんだろうと。例えば社会教育施設の中で博物館、図書館に関しては英訳がある。文科省のパンフレットの中に英語のパンフレットがあって、その中ではPublic holeとある。概念としては外国にはない。ここで盛り込まれたいくつかの機能や役割は、図書館や博物館に分散されている。今、公民館の在り方が問題、試行錯誤されているのはモデルがないからブレていくのはしょうがないのかと。

・高砂、宝来町の次期会長の選任はあったが、昔は次は誰だとずっと流れてきていた。僕らのところでストップした。60歳台の若い世代と70歳台の意識の差がすごく出てきている。60台が誰も集まってこない。ましてや、50、40、30、20となると何を考えているのか、言葉遣いも変わってきている。我々が今、公民館について考える時に我々の頭の中で検討している。だから、若い世代に対してどうアピールできるのか考えなければいけないのかと考えている。

- ・ 学びの場としての公民館というのは、例えばリスキリングやリカレントと言っているが、そのような機能は持てない。お金もないし、資源もない。今までのカルチャースクールレベルのものしか提供できないであろうと。今は死ぬまで働けとなってきている。その中で最新の知識は1年持たないという中で、公民館はどのような知識を住民に与えられるのかという課題も出てくるのではないかと。そうするとお金は膨大にかかって、学校教育や義務教育、初動中等教育との関わりが出てくると思うので、そこまで話を広げるとダメなんだけれども。チャットGPTの話も色々あり、その中で我々が提示できるのは、今までの流れのものしか提示できないのではないかと。そうすると、それは役に立つのかという考えもある。それもあと何年で対象となる人口が消えるのか。新しく来る世代、今の小学校、中学校、高校、大学の人達が公民館を利用するのは間近に迫っている。そこに対して対応できるのか。一つの動きとしては、磐田市の市長がやっているようなこともあると思うが、公民館は静的な状態でずっと来ているが、ある段階で改変されるのでは。公民館そのものが無くなる可能性があるのかと。そこまで踏み込んで考えた方がいいかと思うが無理か。
- ・ ここで取り上げてくれたのは、今の公民館から抽出された地域の防災拠点というのも既にそういう意識をもっているところもある。島田市にとってどのような要素を選択肢とするか。例えば、カルチャースクールとしての機能が重要である、そこに応募者も多い、あとどれぐらい持つか、どういう講座を提供していくか。今までの公民館活動が提供できるのかすごく心配。ある時市長が代わってバサッと切られてしまう。公民館ではなく、防災拠点になどと。そのようなことを言われる可能性もあるのかと。税金の問題もあり、今サービスできている様々な利点が無くなってしまわないのかと。維持できないのではないかと。
- ・ 居場所としての公民館は、各町内会に補助金が出ている。2週に1度、居場所づくりをやっているが、提供側と需要側とはっきり意識が分かれる。常にエンターテイメントを提供しないとどんどん人がいなくなる。何かやろうということは全然ない。居場所を運営していくのはすごく大変。例えば、eスポーツやカラオケなど色々やっているが、出てくるメンバーは固定。若いメンバーはほとんど入ってこない。そのような状態で言葉としては居場所としての公民館と書いてあるが、維持するのは大変でこれからどうなるんだろうと。外国人はほとんど来ない。我々のところでもタイ系の方、韓国系の方、中国系の方と色々いらっしゃるようだが、それ自体把握できていないのとそのような人たちは地方行政に私は関係ないという意識。
- ・ そういうわけでどのような課題があるかを考えて、何をやっていて足を引っ張るような要素が何があるのかと、意識した方がいいかと。このようにまとめていただいてわかりやすくなっているが、町内会に関係していると問題点が産出して、2年後にはどうなっているのかわからない。役員が選出できないのであれば、町内会は解散してもいいと思った。市からのサービスは全然も受けられませんよと言っても何の反応もない。だから、ならなければわからないのかと。コミュニティ自体が崩れかかっているのではないかと。



- ・答申とするならレコメンデーションしかないのかと。例えば、少子高齢化の問題が一番大きいと思うが、若い人たちが代わってくれるといい。定年退職して働いている人がかなりいる。公民館に来る人は男性がほとんどいない。公会堂活動を維持しているのはほとんど女性で高齢者。若い人たちはパートで働いている方がかなり多い。最初の公民館は映画を見せていただいたり、知識の中心であったが、そのような役割から変わってきてここに挙げられている機能は必要だが、現代の社会に対してどのような機能を働かすのかを検討したらいいのかと。

鈴木委員

- ・以前の話し合いの内容を見ながら、丁寧にまとめてくださってありがたいと見ていた。大まかにこのような形で提言をまとめていくということか。

事務局

- ・自分が作文した箇所は全体の構成を考えていない。皆さんの意見の大事なところを吸い上げようという視点で、前後の繋がりはあまり考えていない。3の(2)の課題との繋がり、連動もあまりしていない。この形が大前提でなくても構わない。

鈴木委員

- ・課題とリンクさせるのは、難しいのかと。熊谷委員が仰ったような心配というのは、5年後10年後当然ある話だと思うが、今現状公民館がどのような課題を抱えていて、それとリンクさせるのかは別として公民館が持っている役割はこうだと、今このような活動を実際に行っている、けれどもその中でもこのような課題があるよと。そのような書き方がしてあると、現状と課題が見比べられるのかと。実際に動いている人たちはいるし、良いこともたくさんあるが、今後もうまくいくためにはどうするのか、これから先の課題にはなってくると思う。そのような書き方ができるとわかりやすいのでは。今動いている人たちの良いところはもちろんあるので、そのようなところは押さえつついくと、課題そのものがクリアになっていくのかと。
- ・あけぼのの運営体制は、どのような体制か。主管は市なのか。

事務局

- ・主管は市で所管は福祉課。同和対策からの施設ということで福祉課が所管。

鈴木委員

- ・講師料などの設定も福祉課なのか。

事務局

- ・予算は福祉課にある。

鈴木委員

- ・社会教育課と福祉課の予算の内容の違いがある。

西田委員

- ・基本は変わらない。講師料、職員の給与体系、維持運営など同じ。あけぼのは多少、国からの補助があるのかもしれない。

萩原副議長

- ・一緒にしたらどうかと思うが、隣保館として成り立っているメリットはある

と思うので、管轄を一緒にすることは乱暴なことなのかと。

鈴木委員

- ・社会教育課より福祉課の方が予算は潤沢にあると聞いた。金谷公民館でやっている金谷宿大学のような講座は、補助が出ているが講師に直接くるわけではない。講師に補助が出ているのか。

西田委員

- ・変わらない。お金はむしろないくらい。建物も古い。講師料も変わらない。

事務局

- ・直営の社会教育講座は、あけぼのも公民館も同じ体系を取っていると思う。また、金谷宿大学は一つの組織、事業で講師も中から出てきていただいと。その仕組みは、直営の社会教育講座とは少し違うのかと。

清水課長

- ・金谷宿大学は、教授が生徒を募集する形で実施している。元々、公民館にあった事務局が補助している。

田代議長

- ・講師の登録制度は金谷宿大学だけか。

清水課長

- ・金谷宿大学として登録するものはある。社会教育課には市の登録制度もある。

事務局

- ・金谷宿大学は素晴らしい事業で、教える方も自主的に出てきていただいて、学ぶ方も出てきていただいて、中で完結している。市の生涯学習講師登録制度とはまた違う。

鈴木委員

- ・清見潟大学はNPO法人になっている。清水に世界的な企業がたくさんある。そのようなところで働いている人たちに退職後に来てもらうようにアピールをして、生徒の募集をしているが大変であるとの話を聞いた。循環が生まれるような方法の模索はこれから先ずっとしていかなければならない。
- ・年齢によって考え方そのものが変わってきているので難しいとは思いますが、その世代ごとちょっと先を入れてみようかという人たちが少しでも表れてくると、その人たちがその世代にあったものを作っていくという形になってくるのが理想。

熊谷委員

- ・3つ公民館があるが、担当者の不満を聞いたことはないか。どんな悩みを抱えているかと聞くことも重要かと。

清水課長

- ・課題としてはある。講座を企画しても若い方が集まらないなどの課題は出てきている。状況を見ながらアンケートなどでニーズを把握し、それぞれで工夫はしてくれている。カルチャースクールレベルというところの内容も質も変わってくるのかと思う。課題に合わせた社会構造の変化、人の考え方の変化というところに適応していかなければならない。今はある程度のことできていても、これから先、1年、2年、5年、10年先を考えた上での在り方

を考えてくことになる、そこにも合わせる。若い方がどのようなことを考えているかところを踏まえて考えていきたい。課題は施設としての老朽化などの問題もあり、ソフト面、ハード面色々聞いている。在り方の提言の中に入れていただければ。

熊谷委員

- ・10数年前に労働経済専門の先生とお話をした際に、その時代から企業は社外教育をやらなくなった。社員は自分のお金でリカレントをやらないと企業の要求に答えられなくなってきている。その受け皿に公民館がなれるかは難しい気がする。公民館が最先端の知識を教えられるだけの機能を持つ必要はないのかと。そのような現実があり、自己責任だと冷たい言い方になるが、それに代わる機能は、図書館や博物館で持てないかと夢想したことがある。生活の仕様を提供するまではいけないだろうと。
- ・ポラロイドカメラの特許を取った人は、ニューヨーク・シティ・ライブラリの図書館を使って取った。欧米では、第1線級の知識を公共施設が与えられることができている。日本でも愛知県立図書館で特許工法を全部受け入れているが、十分に活用されているか。我々がどういうレベルで住民に対して、色々なサービスを提供できるかをはっきりと文章化した方がいいかと。社会教育の目的を書いて、その中での公民館の役割ということで落としとしていったらどうかと。
- ・そこまで大それたことは必要ないということであれば、構わない。

清水課長

- ・公民館の役割は、元々議長が最初に仰ってくださったように誰もが用がなくても来れるような公民館がいいという話があったと思う。では今何もしないで来てくれるかという、世代も考え方も変わってくると公民館自体には来てくれなくなる。逆に来てくれるための仕掛けをしていかなければならない。集うための価値観という話も出た。そのためには現状でどのような不具合があるかということも必要で、利用者の年齢層や使い方、考え方の変化に対応していかなければならない。それを提供するもの、ソフトの面では講座の内容や、公民館の本来の機能だけで来てくれないのであれば、地域として考えた中で、必要な役割を果たす機能をつけていかなければならない。今の需要には対応しているが、それがだんだん効かなくなってきている。先々を考えていく在り方をお話いただければいいかと。

熊谷委員

- ・住民の興味から言うと身の回りの関心事しか興味がない。大祭に関する講座をやった時は集まるがそれだけ。それからずれると感心がなくなる。あの時はこれをきっかけに色々なことができるかと思ったら、あまり興味がなかった。

清水課長

- ・そのニーズをどのように捉えていたのか。何が必要で、何がいない物なのか。

熊谷委員

- ・高齢者ばかり。

清水課長

- ・対象者はこれからを担っていく人に対し、どのようにアプローチしていくか。

熊谷委員

- ・難しいことは難しい。

田代議長

- ・では、どのような活動があれば書いたものに繋がっていくか。「外国人が地域に溶け込み、地域の手助けを果たすことも期待できます」とある。初倉は外国人が1,291人のうち437人いるが、公民館で見かけたことはない。だったら、この人たちに来てもらうにはどのような活動をしたら、来てくれるのかまで踏み込まないとこの提言の意味がない。繋がる場もこのとおりだが、どういった活動からこの繋がりが出てくるのか。
- ・青山委員がやっているこども食堂で我々のチームが絵本の読み聞かせをやったり、折り紙をやったりする。親は一緒に来るが、一緒にやろうとは一切言わない。我々の姿を見て、あの年代になればあのようなことをやると感じてもらえればいいのかと。
- ・では、外国人が公民館に来てもらうのはどのような活動があるのか。その具体的なものに触れていくとすごく物になるのかと。

萩原副議長

- ・外国人のことはあけぼのに来ていたお子さんの話だが、自然と来たわけではないが学習面で来なさいというところから、そこが居場所になって繋がっていった。外国人の方はプラスにならないと絶対に来ない。工場で働こうということになっても、自分にいいことがないと来ない。学校教育課で日本語教室をやっていたが、交際交流協会に任せられクラシカでやっていた。初倉にそのような方たちが多いということはわかっているので、初倉でやったらどうかということも考えた。無料で公民館でやれば、そこには必ず来てくれる。こういうところがあるんだなとそこで人と繋がっていったり、館長とも繋がっていけば、色々な情報を与えられる。こちらに来て、初めて小学校に上がるお子さんを去年の今頃、5回ほどのコースで小学校に上がるとこうだとかランドセルの使い方などの講座を開いたら好評であったが、支援があることを知らなかった。そこで福祉の担当の方に繋いで、小学校に行って援助を受けることに繋がったこともある。何かそこでやらないと来ない。

田代議長

- ・不登校のことも同様。何かやらないと行くところがない。

鈴木委員

- ・何かしらのきっかけさえあれば、ちょっと来てこういういいことがあったよと。また、他の人にお話をする拠点であってほしい。そのように利用、活用できる公民館というのはいかがか。

田代議長

- ・(事務局作成案に) 具体的な取り組み事例を挟み込みたい。

熊谷委員

- ・小学校でも外国籍の方は多い。家では自国の生活をしているが、小学校では

食事が取れないなどの問題がある。

萩原副議長

- ・文化や習慣に違いがある。2つのところから相談を受けている。一つはお子さんは高校生レベルのお子さんで家にいる。日本語ができないので、買い物に行くのも怖い。ふじのくに国際高校に行って勉強したいので、問い合わせをしたら日本語で授業をするので、日本語がわからないおさんは無理と言われた。もう一人は同じような子で、勉強をしたいのだが日本語ができない。自分の希望のところにはいけない。そういうことがいくつかあるので、たくさんではないが、ニーズはあるのかと。

西田委員

- ・明後日、初倉公民館にフィリピンから来た子が初めて来る。その子たちは中学校年代だが、中学校に行っていない。なぜかという萩原副議長が言ったようにコミュニティがない。人との関わりがない、自分の家から全然出られない、だから公民館に学びの場があるからおいでと来るのだが、初めて。公民館の存在自体も知らないのでは連れて行く。

田代議長

- ・それは学習支援か。

西田委員

- ・そうである。それで一緒に連れてきて、公民館というところがあって色々な施設があって、いろんな便利な利用できるものがあるよということが言えたりする。不登校の子でもそのような場所があると、学校にも行けない、教育センターにも行けない、中間的なところで地域にそのような場があると不登校の子たちが来たりする。自分がやっている授業の中でも5、6人学校には行けないが来てる子がいる。
- ・熊谷委員から若い人たちの話があったが、初倉だと児童館があるので利用者は非常に多く、若い方たちも集う。児童館のお祭りなどでは、中学生も含めて200~300人ぐらい集まり存在をします。なので、若い人たちも非常に多い。
- ・講座も例えばコーヒーをテーマにしたり夜開いたり、土日に開けば若い人は来る。それもわかっている。田代議長が言ってくれたように理想の姿があるから事例もあるよというのは、非常に大きな提言になるなど。

鈴木委員

- ・そうである。

西田委員

- ・熊谷委員の言っていることは、また次元が違う話になる。

熊谷委員

- ・色々なサービスがあるが、島田としてどのように絞っていけばいいか。そのように持っていった方がいいという話。高度教育を与えるということではない。そういうこともあるよという例だけ。

萩原副議長

- ・答申の形にしようということで、田代議長が起こしてくれたところに事務局が作成してくれたものを組み込んでいる。これが答申の形になるとして、柱立てはどうなのかを見ておいた方がいいのではないかと思うのだが。求めら

れる具体的な役割として、赤いところを事務局がまとめた。委員が課題を挙げたものを田代議長が①～⑦までまとめた。先にその課題があって、島田市として公民館の在り方が来る。で、その後課題がどうなのかということ鈴木委員も言われたが、また課題になってしまうのか、今やっているプラスの部分と課題をこの次に洗いだすのか。このあたりがどうなのか。

熊谷委員

- ・答申のスタイルとしては主文が最初に来て、後が説明する形になる。

萩原副議長

- ・「はじめに」のところと2番のところまで制度上、法的な基盤の部分の説明でそれ以降が島田のことになる。

熊谷委員

- ・最初に島田市における公民館はこのようにあるべきであるとして、その後このようなことを並べていく。

萩原副議長

- ・赤い部分のまとめてくれた部分が最初になるのか。

熊谷委員

- ・そうである。言葉は少なくする必要があるかもしれないが、どうか。

田代議長

- ・それでもいい。

鈴木委員

- ・同感である。

田代議長

- ・まずは理想論を言っておいて、課題はあると。でも全部の課題を抱えているわけではないので、検証するようにとの言い方をしている。

熊谷委員

- ・そのようにやった方がいい。

萩原副議長

- ・ある程度、骨組みが明確になっていた方がこれからどこを膨らめていこうかと話し合いがしやすいのではないかと。今回は具体的な部分を膨らめていければ、外国人の話など。

田代議長

- ・以前、小学校の授業参観に行った時に6年生のフィリピンの子が廊下に行った。どうしたかと聞くと言葉がわからず、授業に参加できないとのこと。濱田教育長の時に話をしたところ、来年から支援員を増やすとなった。確かにその効果は出て、その子は中学に行ったが中学では優秀な成績で卒業した。そのような事例もある。

熊谷委員

- ・旧島田市に公民館はない。萩原副議長が仰ったような対象な子はいらぬ。どこでやったらいいのか。公会堂か。

西田委員

- ・真ん中になぬのは、一番の問題。

萩原副議長

- ・二小学区の方がこども食堂をやりたいが、どこでやったらいいかと相談があった。あけぼのや教育センターを紹介した。クラシカも手放すので、おおるりしかない。市の中心部に集まるところがない。

熊谷委員

- ・公会堂しかない。

西田委員

- ・六合、初倉は恵まれている。

田代議長

- ・公会堂の話が出たが、全部はできないが参考になる部分は取り組んでくれな  
いかという言い方でいいのでは。
- ・課題の話は出たが具体的役割の中で1があって理想的な話をして、しからば  
公民館の現状はこうだと、ひとつひとつの課題を掘り起こした方がいいの  
か、その方がわかりやすいか。投げかけぐらい。
- ・具体事例を皆さんに文章をもって求めてほしい。

事務局

- ・欠席の委員、出席の委員にも改めて依頼する。

### (3) 令和6年島田市はたちの集いについて（報告）

資料5に沿って、事務局から報告。

### (4) 令和6年度社会教育団体に対する補助金の交付について（報告）

資料6に沿って、事務局から令和6年度の査定状況を報告。

## 6 その他

事務局から令和6年度第1回目の会議日程調整の回答を依頼。

## 7 閉会（萩原副議長）

- ・多様性の時代と言われるが、テイラー・スウィフトの「Shake It Off」という  
歌を思い出した。そんなことは気にするなという意味。そのような歌が若者に  
支援されている。そのような若者たちの興味をどう引っ張ってくるのか。ずっ  
とそのような考え方ではないにしろ、そういう難しさがあるなと思った。私た  
ちも若い人たちの気持ちになって、また新しいことを考えていかなければなら  
ないのかと。